

## 地域レベルの会議における主な議論のまとめ (地域の課題および市の課題)

- (1)地域で起きている問題と課題は、1～9のテーマに分類し、地域個別ケア会議と地域包括ケア推進会議で話し合われた内容をそれぞれ記載した。
- (2)地域での対応方針は、地域包括ケア推進会議で挙げられたものを内容に応じて、「実態把握」、「普及啓発」、「連携強化」、「取組検討」の4つに分けた。
- (3)個別ケア会議で複数のテーマに跨る事例については、主なテーマ部分を太字で、それ以外は「再掲」と表記した。
- (4)市レベルの課題は地域個別ケア会議と地域包括ケア推進会議で挙げられたものをそれぞれ記載した。

# 松戸市地域ケア会議におけるテーマ

テーマ
1. 生活の困りごと (介護予防・生活支援・移動支援・ペット等)
2. 認知症
3. 権利擁護 (虐待含む)
4. 見守り
5. ケアラー支援
6. 防災
7. 医療・介護連携
8. 多分野・多文化・地域共生
9. 地域で支える仕組み

テーマ	(1)地域で起きている問題と課題		(2)推進会議で話し合われた 地域での対応方針	(3)市レベルの課題		推進会議で話し合 われた地区	
	個別ケア会議	推進会議		個別ケア会議	推進会議		
1.生活の困りごと (介護予防・生活 支援等)	<p><b>【介護予防】</b> ○高齢者、特に独居の方が気軽に 参加できる地域のイベントやグ ループ活用が不足しており、その ような情報を誰もが手軽に入手で きる仕組みができていない(個6 再掲)</p> <p>○サロンやカフェと一緒に行って くれるボランティアを育成する必 要がある(個7再掲・個8再掲)</p> <p><b>【生活支援】</b> ○独居で服薬管理や食事の管理が 困難な方が増えている(個11・ 個12)</p> <p>○インフォーマルサービスは地域 差がしやすい(個39)</p> <p>○高齢者・障害者の熱中症(個 44・個45)</p> <p>○ゴミの分別が複雑で、ゴミ出し が8時半までに出さないとけな い(個55)</p> <p>○一度生活保護を受けてしま うと、中々自立する事が出来ない (個55・個57)</p> <p>○通院同行など制度では補えない 支援の不足(個16再掲)</p> <p>○生活困窮気味の高齢者の生活を 保障するシステムが無い(個41再 掲)</p>	<p><b>【生活支援】</b> ○認知症高齢者の生活支援(団 地)</p> <p>○地区で(介護保険以外の)使え る社会資源を共有(六実六高台)</p> <p>○熱中症で亡くなる方は高齢者の 割合高く、経済的な理由・認知機 能の低下によりエアコンを適切に 使えない(小金)</p>	実 態 把 握	○地区社協ホームヘルプ事業の協力者 を増やす ○お手伝いシール ○生活保護世帯は受給開始時、転居時 にエアコン取付費用の支給受けられる 場合がありそれ以外は社会福祉協議会 の生活資金貸付制度の案内する。社協 の貸付は事前面接があり、民生委員が 立ち合い支援したケースがある。	○高齢者の熱中症対策	○移動販売誘致 ○要介護認定でタクシー券 ○スーパーレジ支払い支援 ○市役所経由シャトル便 ○買い物動線上に休憩所の設置 (歩道、店舗内) ○クールスポットの整備	団地 六実六高台 小金
			普 及 啓 発	○企業や商店と協力し地域の活性化 ○社会資源を周知できるよう結果をま とめ、地域で情報を共有する ○防災訓練等地域でのイベントでの地 域包括支援センター等の啓発活動 ○7月8月の熱中症搬送数が多い。早 い時期からの注意喚起が必要	○若い世代へ住まい選びの大切さ を周知 ○独居高齢者の見守り体制の大切 さを民間業者へのアピール	○社会資源の冊子をつくる ○松戸市独自サービス(A3)をリ ニューアルしてもっと見やすく ○松戸市公式ホームページ(まつ どDEいきいき高齢者)の情報を 更新する	
			連 携 強 化			○乗り合いタクシー、コミュニ ティバス、病院送迎バス、巡回 式、幼稚園、葬儀社など空き車両 利用	
			取 組 検 討	○買い物、通院支援、移動販売、移動 理美容が可能である業者を見つけ、協 力依頼をしてみる ○熱中症の夜間の対応を検討する必要 あり	○ながいき室を高齢者だけではなく、 障害、小児も利用できるように ルールを見直すことができない か		

テーマ	(1)地域で起きている問題と課題		(2)推進会議で話し合われた 地域での対応方針	(3)市レベルの課題		推進会議で話し合 われた地区
	個別ケア会議	推進会議		個別ケア会議	推進会議	
1.生活の困りごと (移動支援・ペット等)	<p><b>【移動(外出)支援】</b> ○外出困難高齢者等への移動支援のための社会資源・サービスが不足している(個32・個38・個59・個61・個7再掲・個8再掲・個58再掲) ○認知機能が低下している方の免許未返納問題(個18・個20)</p> <p><b>【ペット】</b> ○地域でペットの飼い方(経済面・繁殖して増えてしまう・寿命等)(個21) ○ペットの多頭飼育の問題(個22)</p>	<p><b>【移動(外出)支援】</b> ○買い物支援(明2西) ○地区に坂が多く要援護者の移動に支援が必要である(矢切) ○免許返納や認知症・精神疾患の悪化等で身体状態や判断能力が低下して来た時に、買い物、外出、通院等を継続していくために(馬橋西)</p> <p><b>【ペット】</b> ○猫の多頭飼い・疾病等による不適切飼育からの不衛生問題・飼い主の死亡等によるペット保護等(東部)</p>	実態把握	<p>○介護ヘルパーに頼めない物や自分で見て選びたい物の買物ができないことを我慢して生活している高齢者が多い。 ○外出困難高齢者・障害者等への移動支援のための社会資源が不足している ○介護保険で階段昇降機をレンタルし易くできないか</p>	<p>○経済困窮者に対し、買物のための交通費負担や有償ボランティア利用時の費用負担など経済的支援 ○免許返納時の特典等松戸市独自の取り組みが出来ないか。 ○買い物代行マッチングアプリ等の作成</p>	明2西 矢切 東部 馬橋西
			普及啓発	<p>○地域猫活動等を周知し、市民の協力者を増やす ○在宅支援者のネットワークに相談先のチラシ等を用いて周知</p>	<p>○市職員に地域でのボランティア活動を奨励してほしい</p>	
			連携強化	<p>○外出支援において、大学生等若い世代の方に活躍してもらう事が出来れば ○今現状である移動資源(グリスロ等)の活用とその資源が活用出来ない人の情報共有をし、専門職も関わりながら対応していく ○ペット飼育をし、不衛生になると感染症等の病気が心配。関係者・家族が連携して注意していく</p>	<p>○(免許切れなのに運転をする等の)認知症高齢者が法律に反することをしている際の対応</p>	
取組検討	<p>○買い物代行ボランティアの仕組み作り ○買物移動支援(すまいるショッピング)の拡充 ○住民が集まって出かけて行き、又、介護予防も合わせて行える様なグループを作る事が出来ないか。</p>	<p>○マンションや団地へ階段昇降機設置の補助金 ○猫は飼いやすいため、多頭飼育の問題がある。行政としても、飼育方法等のルールについて(去勢)指導は出来ないか</p>	<p>○地域猫活動は予算を付けて、ボランティア団体に委託</p>			

テーマ	(1)地域で起きている問題と課題		(2)推進会議で話し合われた地域での対応方針	(3)市レベルの課題		推進会議で話し合われた地区	
	個別ケア会議	推進会議		個別ケア会議	推進会議		
2.認知症	<p><b>【見守り・支援体制】</b>  ○認知症、軽度認知障害等について早期発見、介入する仕組みがない（個2）  ○自身の体調の変化を訴えることが難しい認知症の人を地域ぐるみで見守り、異常の早期発見ができる地域づくり（個30）  ○身寄りがない認知症の方への意思決定支援について、多職種の連携を進めていく（個16再掲）  ○認知症の方の就労を含む生きがい支援（個18再掲・個20再掲）</p> <p><b>【認知症の理解・普及啓発】</b>  ○認知症になっても同じ活動が出来る場がある事を周りが知る機会を設ける（個9）  ○精神疾患等がある家族に対する認知症への理解支援（個17）  ○認知症の正しい理解と早期発見・早期診断・早期治療の必要性を普及啓発（個34）  ○公的機関や地域の方等への認知症対応の普及啓発（個35）  ○町会などの地域で活動される方が認知症について知る機会が少ない（個60）  ○認知症についての知識を得る機会が知られていない（個40再掲）</p> <p><b>【認知症の方の地域活動の場】</b>  ○認知症になっても活躍できる、社会参加できる場がない（個51再掲・個61再掲）</p>	<p><b>【認知症の理解・普及啓発・活動の場】</b>  ○支援が行き届かない認知機能が低下した高齢者（馬橋）</p>	実態把握	○介護保険以外の認知症高齢者の社会参加の場が少ない ○認知症の方が活躍できる場		馬橋	
			普及啓発	○地域の中で、高齢者がよく利用する場所で情報発信をする。	○認知症の普及啓発		
			連携強化				○住民の方と介護事業所が交わる場
			取組検討	○既存の活動を発展させ、支援者が楽しく参加できる仕組みを作る			

テーマ	(1)地域で起きている問題と課題		(2)推進会議で話し合われた 地域での対応方針	(3)市レベルの課題		推進会議で話し合 われた地区
	個別ケア会議	推進会議		個別ケア会議	推進会議	
3.権利擁護 (虐待含む)	<p><b>【セルフネグレクト】</b> ○地域にゴミ屋敷がある（個43）</p> <p><b>【8050問題の虐待疑い】</b> ○8050世帯では自ら声を上げることが少なく、孤立している世帯の実態把握ができていない（個33）</p> <p><b>【成年後見制度等】</b> ○日常生活自立支援事業は本人同意が必要とする中で、生活困窮が予測され、本人同意がなくても困窮を予防できる受け皿がない（個31）</p> <p>○日常生活自立支援事業や市長申立での後見の申立には手続きに時間がかかる（個29再掲）</p> <p><b>【身元保証人】</b> ○緊急的にケアマネが金銭管理や入院対応を行わなければならないことがある（個29）</p> <p>○身元保証人のいない高齢者を支援する公的制度が無い（個41）</p>	<p><b>【セルフネグレクト】</b> ○独居等で介入・交流に関する拒否の対応（小金原）</p>	<p><b>実態把握</b></p> <p>○CM、地域住民、包括、弁護士、医師の連携と後見制度の活用</p> <p>○複数回の声掛けと町会イベントの案内や参加の促し</p>	<p>○日常生活自立支援事業や市長申立での後見申立には手続きに時間がかかり、やむを得ずケアマネが金銭管理や入院対応をしている。制度の諸手続きの簡略化</p> <p>○生活保護受給者で使い込みによる生活困窮が予測される人に、本人同意がなくても困窮を予防できる制度がない</p> <p>○身寄りのない独居高齢者に対する公的身元保証制度が無い</p> <p>○ゴミ屋敷への対応</p>	<p>○しくみの中に生じている隙間を埋めるための行政や政策によるバックアップの構築。例えば、民生委員等が見守り活動をする中で、拒否がある方でも食べ物を持っていきと玄関を開けてくれて安否確認できることもある（開けてくれなくても、食べ物を玄関先に置いて、なくなっていれば安否確認できる）。そのような食料を提供できるような行政や政策による体制作り</p>	小金原
			<p><b>普及啓発</b></p> <p>○町民の安否確認や情報交換の為にしゃべりサロン、有志クラブ、町会イベントの定期的な実施による情報交換の場作り</p> <p>○町内会での見守りに関して独居登録と自治会参加の推奨活動</p>			
			<p><b>連携強化</b></p> <p>○町民の安否確認や情報交換の為にしゃべりサロン、有志クラブ、町会イベントの定期的な実施による情報交換の場作り</p> <p>○町内会での見守りに関して独居登録と自治会参加の推奨活動</p>			
			<p><b>取組検討</b></p>			

テーマ	(1)地域で起きている問題と課題		(2)推進会議で話し合われた地域での対応方針	(3)市レベルの課題		推進会議で話し合われた地区
	個別ケア会議	推進会議		個別ケア会議	推進会議	
4.見守り	<p><b>【地域からの孤立】</b>  ○普段、地域や医療・介護関係者との交流がない、リスクの高い高齢者の早期発見・早期対応が必要（個5）  ○小規模の賃貸に住む高齢者は孤立しがち。安否確認が難しい（個53）  ○地域から孤立している世帯への支援（個37再掲）  ○地域にゴミ屋敷がある（個43再掲）</p> <p><b>【孤立予防・見守り体制】</b>  ○高齢者世帯への地域の見守り（個13）  ○高齢者支援連絡会の相談協力員が不在な地域があるので相談協力員が必要（個24）  ○独居で認知機能が低下し、身寄りがない・他者の受け入れができない高齢者の孤立防止（個46・47・48・49）  ○認知症、軽度認知障害等について早期発見、介入する仕組みがない（個2再掲）  ○定期的な見守りサービスがない（個51再掲）  ○集合住宅に住んでいると、地域で見守りを行うのが難しい（個54再掲）</p>	<p><b>【地域からの孤立】</b>  ○コミュニケーション機会の不足による独居高齢者の孤立・孤独（団地）  ○独居で地域とのつながりが希薄なため、実態を把握出来ず見守り出来ない（新松戸）</p> <p><b>【孤立予防・見守り体制】</b>  ○見守りの手段である緊急通報装置についての情報共有が十分ではない（明2東）</p>	実態把握	<p>○お金のない方の不用品片付けの手段がない</p> <p>○バリアフリー化の促進</p>	明2東 団地 新松戸	
			普及啓発	<p>○団地イベントへの参加促進</p> <p>○ALSOKの担当より説明を受けて支援者全体で緊急通報装置の知識を深める</p> <p>○緊急通報装置を導入した事例を共有し設置の必要性があるケースについて学び申請から使用の流れを知る</p>		<p>○心疾患や脳血管疾患など緊急性が高く迅速な対応が必要な事案が生じる可能背があるため、緊急通報装置の安否確認センサーが作動する時間を24時間よりも短時間で通報されるようにしてほしい</p>
			連携強化	<p>○通いの場の充実や介護保険外でも利用できるサービス、有償ボランティアが充実すると良い。介護認定を持っていない方も運動に誘う</p>		<p>○利用しやすいボランティアのポイント制度や特典の導入</p> <p>○要配慮者名簿登録の義務化</p>

テーマ	(1)地域で起きている問題と課題		(2)推進会議で話し合われた 地域での対応方針	(3)市レベルの課題		推進会議で話し合 われた地区
	個別ケア会議	推進会議		個別ケア会議	推進会議	
5.ケアラー支援	<p><b>【ヤングケアラー支援】</b> ○家族支援（ヤングケアラー支援）が必要（個10）</p> <p><b>【家族の支援促進】</b> ○悩みや不安を相談できる環境づくり（個26） ○ひきこもりの子のある家庭の孤立化防止（個27） ○仕事をしながら介護をする人は増えており、介護離職すると再就職は難しい（個42） ○家族の病識が乏しい（個11再掲） ○障害など他制度との連携を推進する必要がある（個15再掲） ○精神疾患等がある家族に対する認知症への理解支援（個17再掲）</p> <p><b>【支援者不在】</b> ○支援者になり得る人が不在の場合の支援方法（個36再掲）</p>	<p><b>【家族の支援促進】</b> ○障害を持つ家族の世話をすることで疲弊している高齢者にどのようにアプローチすればよいか（常盤平）</p>	実態把握	○相談機関のアウトリーチについて ○介護離職防止		常盤平
			普及啓発	○親が高齢になりすぎず、早期に相談できるよう市民に相談窓口の周知、閉じこもりの人の発見、働きかけ、アウトリーチなどできる体制作り。	○多世代、多問題、各相談窓口や福祉まると相談室の役割周知	
			連携強化	○高齢者が子や孫の世話が負担になっている反面、生きがいにつながっている側面もある、支援者間で共有し、負担を見極める。	○多分野合同研修、顔の見える関係作りの機会	
			取組検討		○相談機関のアウトリーチ機能の充実及び強化	

テーマ	(1)地域で起きている問題と課題		(2)推進会議で話し合われた地域での対応方針		(3)市レベルの課題		推進会議で話し合われた地区
	個別ケア会議	推進会議	個別ケア会議	推進会議	個別ケア会議	推進会議	
6.防災	<b>【災害対策】</b> ○集合住宅で近隣との関係が希薄だと、どの様な人が住んでいるか分からず、災害や緊急時など助けを求める事が難しい(個56) ○独居高齢者の災害対策(個35再掲)	<b>【災害対策】</b> ○災害時要支援者の安否確認について(本庁) ○地形の問題や住民間のネットワークが確立しておらず、災害時の避難方法等が定まっていない(矢切) ○認知症の方の防災(五香松飛台) ○災害時の熱中症対策(小金)	<b>実態把握</b> ○自治会では災害時の要支援者として市より提供の名簿で把握。 ○介護事業者はBCPにより災害時要支援者を把握している。 ○備蓄や要援護者の把握で精一杯。熱中症予防対策は進んでいない	○集合住宅で近隣との関係が希薄だと、どの様な人が住んでいるか分からず、災害や緊急時など助けを求める事が難しい	○地域や介護支援事業所が把握している災害時要支援者名簿を、個人情報を守りながら柔軟に支援者が共有・把握できる仕組み。	本庁 矢切 五香松飛台 小金	
			<b>普及啓発</b> ○非常時における地域とケアマネの連携の重要性を普及啓発 ○認知症の普及啓発	○防災計画や避難計画の普及啓発			
			<b>連携強化</b> ○民生委員、相談協力員とケアマネとの連携会議を継続実施。 ○小学校で行う防災訓練に参加。	○教育委員会に働きかけ認サポを必須とするカリキュラムを作る。			
			<b>取組検討</b> ○個人情報を保護しながら、どのように要援護者の情報集約と連絡手段を確立していくかの検討をしていく	○災害時の熱中症予防対策の検討			

テーマ	(1)地域で起きている問題と課題		(2)推進会議で話し合われた地域での対応方針	(3)市レベルの課題		推進会議で話し合われた地区
	個別ケア会議	推進会議		個別ケア会議	推進会議	
7.医療・介護連携	<p><b>【精神科医療との連携】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○精神疾患の方で介護が必要な方に対する医療連携（個19）</li> <li>○アルコール依存症の方への支援（個36）</li> <li>○すぐに相談できる心療内科・精神科等の専門医がない（個50・個52）</li> <li>○飲酒、たばこ（個46再掲・個47再掲）</li> </ul> <p><b>【医療連携】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本人の気持ちに寄り添い、本人が自分の気持ちを話すことができるような支援チームづくり（個25）</li> <li>○減薬の必要性について周知する（個28）</li> <li>○高次脳機能障害の再評価を行えるシステムが必要（個4再掲）</li> </ul> <p><b>【特定の病状の理解・普及・集いの場】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○高次脳機能障害の理解・普及・当事者や家族の集いの場不足（個1）</li> </ul>		実態把握		○減薬について	
			普及啓発		○タバコの有害性を周知していく 予防啓発	
			連携強化			
			取組検討			

テーマ	(1)地域で起きている問題と課題		(2)推進会議で話し合われた地域での対応方針	(3)市レベルの課題		推進会議で話し合われた地区	
	個別ケア会議	推進会議		個別ケア会議	推進会議		
8.多分野・多文化・地域共生	<p><b>【障害福祉、こども分野との連携】</b></p> <p>○2号被保険者が障害福祉サービスを柔軟に利用できる体制が必要(個4)</p> <p>○障害など他制度との連携を推進する必要がある(個15)</p> <p>○障害分野のグループホーム数が不足(個26再掲)</p> <p>○8050問題が増加している(個26再掲)</p> <p>○各世代の相談窓口の周知(個27再掲)</p> <p>○各支援機関の連携強化(個27再掲)</p> <p>○障害サービスから介護保険サービスに移行するしくみが当事者に伝わりにくい(個32再掲)</p> <p>○引きこもりの方への支援(個37再掲)</p> <p>○相談窓口によって年齢的に相談が難しくなってしまう場合がある(個56再掲)</p> <p><b>【多職種支援】</b></p> <p>○身寄りがない認知症の方への意思決定支援について、多職種の連携を進めていく(個16)</p> <p><b>【介護サービス事業者等への理解】</b></p> <p>○ケアマネが業務以外の支援を求められ負担が大きい(個23)</p> <p>○ケアマネの仕事について知られていない(個40)</p> <p>○地域での問題に対して、地域包括が介入しづらい状態がある(個58再掲)</p>	<p><b>【障害福祉、こども分野との連携】</b></p> <p>○介護と就労の両立、家庭の中に引きこもりの子がいるなど、複数の課題を抱える世帯が増え、医療や多機関とより連携が必要な時がある(常盤平)</p>	実態把握	<p>○引きこもり等、接触できない方へのアプローチについて、法的に何をどこまで支援できるのか</p> <p>○ケアマネは本来の業務以外の役割を期待されるため、ケアマネ一人に負担が増加しがちであり、その結果なり手が不足する</p>		常盤平	
			普及啓発	<p>○障害サービスと介護サービスの制度の違いを理解することが難しい</p>			
			連携強化	<p>○医療に関することは、病院の相談員と課題を共有して解決策を検討していく</p>	<p>○相談窓口によっては年齢的に相談が難しくなってしまう場合等があり、微妙な年ごろの受け皿がない。</p>		<p>○多分野合同研修、顔の見える関係作りの機会</p>
			取組検討				<p>○介護保険支援対象者は、高齢者ばかりではない。幅広い世代を対象とした通所介護事業者や入居施設の設置</p> <p>○障害の特性にあったグループホームを選択できるよう増設</p>

テーマ	(1)地域で起きている問題と課題		(2)推進会議で話し合われた 地域での対応方針	(3)市レベルの課題		推進会議で話し合 われた地区		
	個別ケア会議	推進会議		個別ケア会議	推進会議			
9.地域で支える仕 組み	<p><b>【地域での見守り・早期発見・支援】</b> ○フレイルの悪循環に入る人を地域で早期発見、早期に対応できるシステムが必要（個3） ○ご近所との繋がりが希薄で、近隣住人同士のコミュニケーション不足（個37・個51） ○精神疾患などが理由でトラブルに発展し、ご近所で孤立する可能性（個54） ○普段、地域や医療・介護関係者との交流がない、リスクの高い高齢者の早期発見・早期対応が必要（個5再掲） ○高齢者世帯への地域の見守り（個13再掲） ○高齢者支援連絡会の相談協力員が不在な地域があるので相談協力員が必要（個24再掲） <b>【地域の集いの場】</b> ○独居で地域との交流がない高齢者が気軽に参加できる地域活動・社会参加の場等が不足しており、そのような社会資源情報を誰もが手軽に入手できる仕組みができていない（個6・7・8・14・58） ○介護予防・認知症予防の地域での取り組み（個34再掲）</p>	<p><b>【地域での見守り・早期発見・支援】</b> ○フレイル・認知症などのリスクを抱える高齢者世帯の早期発見、早期対応（明第1） ○地域の支援者同士の横のつながりをより深める必要がある（明2東） ○近所の支援者負担が大きい。支援者の高齢化。助け合いの不足。地域を支えるシステムがうまく機能していない。介護認定を受ける前でも困り事がある（新松戸） <b>【地域の通いの場】</b> ○集いの場の拡充（明2西） ○多世代交流の場がない（矢切）</p>	実態把握	<p>○集いの場の拡充 ○通いの場に通いやすくする工夫 ○地域活動担い手の高齢化、後継者問題</p>	<p>○地域との交流ができていない高齢者と一緒にサロンやカフェに行ってくれるボランティアを育成する必要がある。</p>	<p>○市全体のインフォーマルの集約 ○社会資源をインターネットで検索できるサイトを作る</p>	<p>明第1 明2西 明2東 矢切 新松戸</p>	
			普及啓発	<p>○ケアマネに対する社会資源の情報提供と活用促進 ○子ども～大学生の見守り、育成が出来るると良い。学生が徘徊等で困っている高齢者を発見した時の連絡先の普及啓発を行う</p>	<p>○男性高齢者、特に独居の方が気軽に参加できる地域のイベントやグループが不足している。また、そのような情報を誰もが手軽に入手できる仕組みができていない。 ○徘徊高齢者に関する事業・体制の整備、市民への周知 ○非常時における地域とケアマネの連携の重要性を普及啓発</p>			<p>○見守りが必要な高齢者をより円滑に支援に繋げるために見守りに関する支援機関を網羅した松戸市全体の関連図や支援フローチャートが欲しい（例えば緊急通報装置が作動した高齢者の情報等が支援機関に流れてくる仕組み）</p>
			連携強化	<p>○支援者同士の顔の見える関係を構築し支援が必要な高齢者に対し早期に対応ができるように連携を強化していく ○それぞれの支援者の立場の機能や連携先に対して求めていることを知る機会をつくる ○地域で看取れるようなしくみの準備、助け合いの関係作りが必要 ○地域活動同士の横の繋がりが不足</p>	<p>○介護保険利用までにかかる期間の短縮。ケアマネ不足の解消。</p>			
取組検討	<p>○フレイル・認知症予防の為のサークル作り 若い世代、子育て世代でも関わりやすいテーマで高齢者と交流できるイベントの開催を検討する</p>	<p>○介護保険利用までにかかる期間の短縮。ケアマネ不足の解消。</p>						